



令和4年度仙台市教員プレゼミナール実施状況

1 参加申込数

○ 110名

※ 採用（任用）校種等別申込数 ・小学校75名 ・中学校13名 ・中学校・高等学校13名
 ・高等学校3名 ・養護教諭5名 ・栄養教諭1名

2 会場

○ 仙台市教育センター

3 開催日・実施内容及び参加人数

※ 開催時間 14:00～16:30

回	開催日	テーマ	参加人数
第1回	R4 11/12 (土)	「社会人として、先生として～プレゼミナール開講にあたって～」	49名
第2回	11/28 (土)	「一人一人を大切に作る指導のために」	58名
第3回	12/10 (土)	「魅力ある学級づくりを目指して」「養護教諭になること①」	68名
第4回	R5 1/14 (土)	「仙台市の先生になること」	71名
第5回	1/28 (土)	「先輩からのメッセージ」	67名
第6回	2/4 (土)	「わかる・できる授業のために①」	59名
第7回	2/28 (土)	「わかる・できる授業のために②」 「養護教諭になること②」「栄養教諭になること②」	60名
第8回	3/4 (土)	「子どもたちとの出会いに向けて～プレゼミナール閉講にあたって～」	41名

4 受講者の声

(1)「4月から始まる教員生活に向けての応え等」(令和5年3月 第8回終了時感想等より)

- 採用が決まって安心した一方で、ずっと漠然とした不安も抱えていた。プレゼミを通して、4月を迎えるにあたってどんなことが不安なのか、どんなことが分からないのかということ共有の中で、「確かに私もそれ分からないな」と気付くことや「こういうことが不安かも」となんとなく思っていたことを言語化してくれた意見に触れることが多々あった。不明瞭だった不安、考えや思いが具体化されたことで、わずかではあるが「じゃあこういうことをして備えよう」「こんな姿勢でこう頑張ってみよう」という見通しが立った。
- 参加するたびに、様々な方との交流や、学びがあり、本当に充実していた。まだまだ不安な部分はあるが、間違いなく覚悟はできたと思う。また今回が、初めての試みということで、教育委員会の先生方や、講義をしてくださった現在も現場で働いている先生方には、とても感謝している。自分がちょうどこのプレゼミが開催される年に、採用となれたことを幸運に感じている。
- 教育委員会の先生方や現場の先生方が出会ってきた子供たちのお話をされている時の優しい笑顔がとても印象的だった。私も子どもたちと関わる際に先生方と同じように優しい笑顔を向けながら安心感を与え信頼関係を構築できるような教員になっていきたいと強く思った。
- 来月から子供たちの前に立つということを考えると不安がとても多かったが、教育センターの方々をはじめ、仙台市の先生方がたくさん教えてくださること、質問をすれば助けてくれるということ、そもそも質問をしてもよいということを知ることができ、これまでの不安が少し軽減された。
- プレゼミの度に教育センターに赴いたり、そこで働く先生方にお話をうかがったりするなかで教育センターは頼れる場所だということを実感できた。はじめは緊張していたが、同じ会場で前にも拝見したことのある先生方に何度もお会いできることで「知っている場所」という思いを抱くことができたため、これからは抵抗なく足を運ぶことができるようになったと考えている。
- 同期と顔を合わせることができ交流を深められたのも手ごたえの一つである。配属場所は異なるが、こうして横のつながりを持てたことはこれから教壇に立つにあたって心強い拠り所の一つとなるはずである。
- 分かることが増えれば増えるほど不安も増えていったが、それは自分が少しでも学校現場について知ることができたり、今後のことを考えていたりするからこそその不安なのだと、先生方の話を聞いて思うことができた。
- 来年度は後輩の相談に積極的に乗ったり、時に助言をしたりと、私が今年度のプレゼミで感じることでできた

教職の魅力や実際を伝えていきたいと思う。

- 私たちはこれまで大学でも教育について学んできた。しかし、それらは理論や価値観が主である。どうしてもそれらを授業内で実践に落とし込むことは難しい。なぜなら、子どもたちがいないからである。しかし、プレゼミでご教示くださる先生方は、現場での経験を基にして伝えてくださった。実践的な方法を、それを裏付ける価値観と共に伝えてくださった。大学ではなかなか学びにくい、実践的な内容を学ぶことができた点がプレゼミの成果の一つである。
- 大学の中で仙台市を受験したのが一人だったため、合格してからも不安を誰にも共感してもらうことができないだろうと1人で抱えていた。プレゼミナールも不安を少しでも軽減することや知り合いを作ることを目標に参加しました。全8回全て会場で参加したが、毎回新しい同期と話ことができ、その場で不安を話し共感しあうことがとても私の中で大きな手ごたえだった。
- プレゼミは、採用が決まってから今日までの期間を有効活用するためにとても重要な機会だったと感じている。早い段階から同期の人と顔馴染みになったり、校長先生や先輩方からの話を聞いたりするのは、私自信の先生になることへの不安や迷い、緊張というものを軽減することにつながっていた。理想と現実を聞くことでより教員の自覚を持つことができ、不安を共有することで意見交換もできて有意義な時間になった。是非後輩たちにも仙台のプレゼミナールをアピールしたいなと思った。プレゼミはきっと仙台市の強みにもなると思った。
- 初めは働くことに対して非常に不安を感じ、どんな気持ちでこの学生生活を過ごせば良いか、または春から過ごせば良いか分からずにいた。しかし、話を聞いていくうちに、「相談して良いんだ！」「仙台市はこのようなぜミナールを開催してくれて手厚いな…大丈夫だ！」「思い切ってやっていたいんだ！」と、不安だった気持ちが逆にプラスに変わって、頑張ろうという気持ちになることができた。
- 現役の先生方の話をしている姿をみて、「私も早く先生になりたいな」と思うことができた。勿論、これから悩むことも多いと思うし、不安なこと、壁にぶつかることもあると思う、このゼミナールのお陰で、より一層教員への良さ・魅力を感じた。私は小学生の頃から「先生になる」という夢があった。その夢に少しずつ近づいていると思うと、少し不安もありながら、ワクワクしている自分もいる。今まで沢山の良い先生に出会えたこと、そしてゼミナールで学んだことを生かして教員生活を充実させていければ良いなと思っている。
- 私の手応えは、11月には4月からの生活の見通しや教員生活のイメージが全く持てなかったところから、プレゼミで講義を受けたり、先輩の先生方のお話を聞いたりして、少しは想像できるようになり、自分に必要なことがわかるようになったこと。授業や子どもたちとの関わりで不安な面はまだまだあるが、先輩の先生方がおっしゃっていたように、教員はやはりやりがいのある魅力的なお仕事であると思う。これからも様々な先生方と関わり合っ、高いモチベーションを持ち、教員としての自分の力を高めていきたいと思う。
- 非常にたくさんの大事な話を聞くその中でも最も印象的だったのは、先生方の実際の子供たちとの出来事だ。子供たちが「こういうことを言ってくれたんだ、してくれただんだ」、などのお話を聞いて、いつも非常に感動していた。そして、そのような場面に立ち会いたいなと思った。先生方のお話を聞いて、春から教壇に立つのがとても楽しみになっている。
- 私自身は学び直しとしてプレゼミナールに参加した。全国広しといえど、このような取組は仙台市教育委員会だけだと思う。仙台市には教育センターをはじめとする図書館など学びの施設が非常に充実し、ニーズに応じた研修プログラムがたくさん用意されているのが大きな魅力だと感じた。自分自身が求めればいくらでもスキルアップできるように感じた。次年度は仙台市に仕事を求め、採用試験を受験することに決めた。

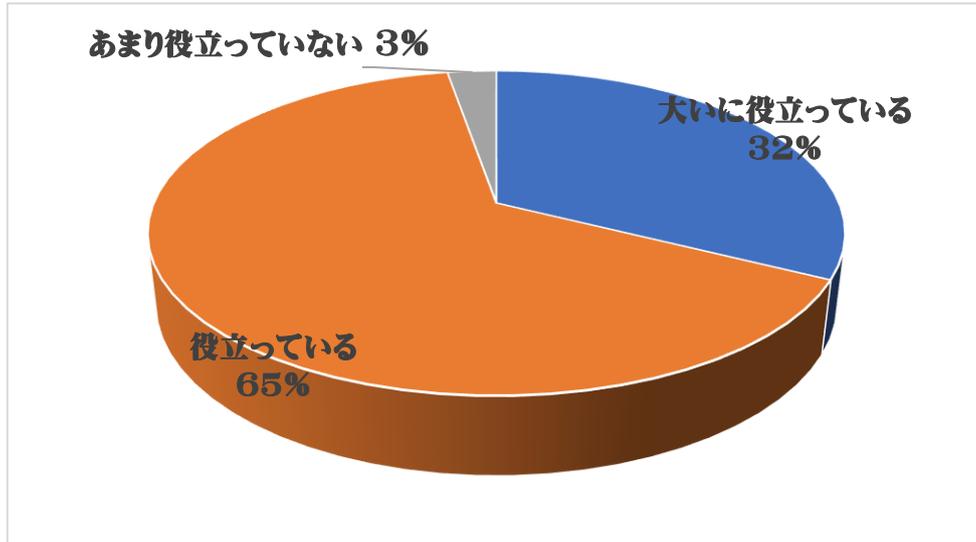
プレゼミナール受講者からの手応えとして、「具体的・実践的な学びができた」「学校現場の具体的なイメージが持てた」「4月からの教員生活への見通しが持てた」「分からないこと等については、まわりに聞くことをためらわない」「『漠然とした不安』が『具体的な不安』に変わった」「改めて先生としての魅力を得た」「同期の仲間との関わりができた」等が挙げられました。

初めて教壇に立つ者にとって、社会人として、先生としての生活には、様々な不安等があると思われませんが、このプレゼミナールにより、不安等の解消や不安等が和らぐだけでなく、期待感が膨らむことにつながったととらえています。

よって、このプレゼミナールが、社会人や先生としての入口における成果は十分にあったととらえています。

(2)「4月から始まった教員生活への手応え等」(令和5年5月 着任1か月経過時アンケートより)

①「プレミナール受講が、4月から教員生活に役立っているか」



②「どのように役立ったか」(「大いに役立っている」「役立っている」ことの具体)

- 教員である前に、社会人としての常識を知ることができたから。
- 学級づくりについてや困ったらすぐにほかの先生方に相談するということ。
- 4月に入ってからの動きや日程を事前に大まかに知ることができたので、安心して勤務を開始できた。学校現場での具体的な内容も多く、実際に働き始めてから、プレゼミで聞いていた内容だと理解する時間も大幅に早くなったように思う。
- 教員としての児童との関わり方や、授業以外の仕事内容などを研修で事前に教えていただいたため、勤めはじめてから極端に焦ることなく対応することができている。
- 学級開きや4月初めの指導ポイントを学ぶことができた。
- 「黄金の3日間」の大切さを学ぶことができたから。この3日間が大切であることは、大学や実習で教わることがなかったので、プレゼミナールの講義を受けて本当に良かったなと思った。また、google やロイロノート、「学びばけっと」等、実際の学校現場で使用するアプリの操作を体験したり、授業での活用方法を学んだりすることができたからだ。
- 新学期の「黄金の3日間」の重要性について講義していただいたため、新学期の3日間の重要性や準備が必要であるということを感じながら準備ができた。ロイロノートを少しでも触れることができたのがとてもよかった。現場に行くと次の週からいきなり授業が始まる。そのため、ロイロノートを活用して他のクラスと同じように授業をしなければいけなかった。プレゼミで少しでも触れていたことで、なんとなく自分で使ってみようということができたが、ゼロベースのスタートで、特に4~6年生の担任となれば難しい部分が多かったと思う。ありがとうございました。
- ロイロノートを使う機会がすぐにあったので、研修に参加したおかげでスムーズに活動することができた。また、学級開きがとても不安だったが、グループの人と話し合ったり、指導員の方の学級開きを体験したりできたことで初めて子どもたちと会ったときにとてもよいスタートが切れた。
- 児童理解に関することで子どもとの信頼関係を築くためには、子どもとたくさん遊ぶとよいということを学べたことがとても参考になり、いろんな場面で役立っている。
- 電話対応の受け答えの講習をしていただき、大変役に立った。
- 4月からの1日の流れや、やることなどをプレゼミナールで学ぶことができたので、心の準備ができていた。また、プレゼミナールで多くの先生に出会うことができたので、その先生方と連絡をとれるという安心感があり、同期の存在が大きいと思った。本等では学びきれない内容、具体的な内容を学べて、必要な準備を考える時間があった。
- 先輩の先生方からのお話の回に参加しました。なかなか学校では聞けない小さなことも聞くことができたため、勤務前から働くにあたる想像ができ、事前準備などを行えたと感じている。また、先生方とのコミュニケーションの大切さ等もお聞きしていたため、積極的に先生方とお話し、良い関係を築かせていただいていると感じている。

- 着任からの具体的な流れや校務支援システムの使用について説明があったおかげでいざ始まってもしどろりとして対応することができた。ICT の活用についての講義での学びが実際の現場での使用に役立っている気がする。
 - 学級で紹介していただいたゲームをやってみたらとても盛り上がった。
 - 教員経験はあったが、自治体による違いなどを知りたかったので校務システムの話などが少し聞けて良かった。ただやはり、使いながら覚えるのが一番ということも感じましたが、それでも話を聞くだけでも少し安心できた。
 - 教員生活の具体を、現場を知る先生方から継続してお話を聞けていたので、心構えを生かしている。また、困ったことがあればいつでも相談して良いんだと感じ、心強く思っている。
 - 現場のリアルな様子を受講することで知り、実際イレギュラーなことが起こった時でも落ち着いて対応することができたため。
 - 授業の構成、学級経営、電話対応など多くの場面
 - 学級経営や保護者対応についての講義を受講したことで、事前の心構えができ、安心して着任することができた。また、講師の先生や現役の先生からのアドバイスを受けたことで、見通しをもって教員生活を送ることができていた。
 - 分からない事が多かったが、現場の仕事や雰囲気はわかり知識をつけることができたから。少し不安を取り除くことができたから。
 - 学校内の周りの先生方と協力しながら指導や支援をしていくことや、保護者への対応の仕方などについて、気をつけるべきことを学ぶことができ、学校での現場で役立っている。
 - 最初は聞くことが大切と教わったが、実際に最初の1週間に、周りの先生を頼って行動できた。
 - 授業作りについて実践的な学びを得ることができた。また、見通しを持って業務に取り組むことができていると思う。
 - 参加した回の中で、まなびポケットやロイロノートについて知る機会があり、赴任先でまなびポケットを活用して出席確認をとっていたので、事前に存在を知っていてよかったと思った。ロイロノートについてはまだ授業内で使ったことはないが、ほかの先生から活用アイデアをいただいたので、今後使用してみたいと思う。
 - 第3回の集団の信頼関係づくりや授業づくり(ルールなど)や、第4回の保護者対応での心得、また第7回の音楽の先生とのマンツーマン研修での具体的に学校でやることや授業のコツ、授業づくりについては、特に役に立った。
 - 実際に中学校の教諭として働く先生からのお話を伺った際、生徒と関わる上でのルールやリフレッシュを大切に仕事をするなどをお話いただき、それらが働いていく上で役立っている。
 - 研修を受けたことによって、実際の現場で使用するものや、困ったときにどうすれば良いかなど、具体的に知ることができた。受講しないで働き始めていたら、本当に何も知らないままいきなり働くことになっていたのでは、本当に受けておいて良かった。
 - 養護の先生のお話を伺った際には、仙台市の健診の進め方や報告など、養護教諭としての1年の動きを教えてくださいました。そのおかげで、スムーズに健診を進めることができています。また、参加者同士の情報交換の際にオンラインで話をした先生と、同じ学校に赴任することとなった。着任のときには、お互いの顔を見てとても安心し、今では互いにより相談相手となっている。座学だけではなく、人との繋がりをつくることのできたことに、とても感謝している。
 - 現在の教育現場の実情や自治体独自の取り組みを知ることができたこともだが、専門職に対する基礎的な学びを改めて確認することができたため、気持ち新たに職務に向き合い、学ぶことができた。
- ②「役立っていない」「あまり役立っていない」理由
- もちろん役に立つ内容もたくさんあったが、実際に教員の仕事を試してみないと分からないことが多いと感じたため。

アンケート結果から、受講者の皆さんは、プレゼミナール終了時に得た手応えを学校現場で十分実感できています。

よって、「プレゼミナールが、スムーズな入職や年度初めの教員生活への適応等にしっかりつながった」という成果を十分に得られたととらえています。